

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	たむら地方児童発達支援センター（児童発達支援）		
○保護者評価実施期間	令和 7年 1月 7日		～ 令和 7年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	令和 7年 1月 7日		～ 令和 7年 1月 21日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7年 2月 3日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)と思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	ご希望に応じて、親子通園による家族支援が出来る。	子どもが成長、発達するための基盤となる家庭生活や親子関係を支援するため、親子で一緒に利用できる集団支援（親子通園）を行っています。スタッフとお子さんの関わりや、課題への取り組みを実際に見る事で、関わり方や遊び方の理解を深めます。また、お子さんの行動等、疑問点はその場で解説しながらアドバイスを行い、発達の理解を深める事で、お子さんとの親子関係が充実するよう取り組んでいます。	
2	切れ目のない支援を提供できる	児童発達支援・放課後等デイサービスの多機能型事業所なので、就学し児童発達支援が終了となっても、同じ場所で、同じ職員が引き続き放課後等デイサービスの支援を行う事が出来ます。	就学前のお子さんの状況も把握しているので、環境の変化によるストレス負荷を察知し、お子さんの状況に合わせて課題の調整や休憩等を適宜組み合わせる支援を行います。

	事業所の弱み(※)と思われること ※事業所の課題や改善が必要と思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報発信の力が弱い	アンケート結果にもありましたが、研修会実施やマニュアル関係の周知、訓練の状況等の項目に「分からない」「どちらともいえない」の回答が多く見られました。課題予定表へ記載すると、見落としがちな項目も、伝わりにくいのではないかと感じました。	事業所にスマホを用意し、LINE等のメッセージアプリを導入する事で、お便りや研修案内等を画像に落とし込んで送信したり、その日の活動状況の写真を添付する事で、お子さんの状況を視覚的にも伝える事が出来ます。また、緊急時の連絡も1件ずつ電話連絡せず、一斉送信を活用したスムーズな連絡手段になると考えます。
2	利用できる曜日が限定している	今まで放課後等デイサービスのみの事業運営していた事で、定員数の8～9割は放課後等デイサービス利用児が現在も在籍している為、利用枠の空きがある曜日が限定的になってしまっています。	放課後等デイサービス利用のお子さんで、利用日の変更が可能なお子さんに別な曜日をご提案し、少しでも利用申し込みが出来るように工夫していきたいです。